

学校生活川柳（厳選百句）

平成二十年十一月八日

この夢を 叶えるために 吳港来た
 常日頃 キレないギャグで ドン滑り
 合宿は 脱出不可能 島流し
 両親の いびきうるさく 不眠症
 一言で 生徒は嘆く 再テスト
 なぜ見える 朝練行く時 満月が
 授業中 いつも寝るやつ 決まってる
 行く気なく ぐずり布団で 丸くなる
 次こそは プラスも行くぞ 全国へ
 できるなら 受験勉強 やり直し
 これもダメ？ 頭髪指導 厳し過ぎ
 馬耳東風 注意されても 変化なし
 試験後に 下から眺める 順位表
 暑い中 歩行訓練 我が部隊
 目が覚めて 気付けば学校 終わってた
 一年目 担任超える 存在感
 副担が なぜキレるのか 意味不明
 三枚で 泣く子も黙る 指導室
 吳港高 華はないけど 覇気はある
 我が担任 冷えた眼差し マジ怖い
 吳港生 みんなの視線は 女子高生
 野呂登山 中止に胸を なで下ろす
 家を出て 門に入ると 憂鬱に
 広高校 いつか絶対 抜いてやる
 我が担任 マジ格好良く クール過ぎ
 四十路前 やつと来ました 遅い春
 大声と ドリブルの音 鳴り響く
 もう一度 目指すあの場所 頂点へ
 「オモロ〜」と 心底言えぬ 毎日よ
 この夏は やぐらの上で 雄叫びだ
 ただ我慢 これだけ学んだ ような気が
 誰かさん 毎度ながらの 長話
 生徒たち カード地獄に 四苦八苦
 夢心地 叩き起こされ 逆にキレ
 授業中 集中したい 睡眠に
 最近は 面白きこと 無に等しい
 引退し 坊主卒業 うれしいな
 もう懲りた 二度と行かない あの部屋に
 体育祭 熱気で暑さを 吹き飛ばす
 登校中 可愛いあの子に 一目惚れ
 自分でも 自分の気持ち わからない
 また覗き うちの校長 悪い癖
 せめてもの 願い靴だけ 自由に
 朝テスト 昼から授業 生き地獄
 俺の夏 線香花火の ように散る
 エクセレント 目を開けて寝る その特技
 愉快だね うちのクラスは 動物園
 この夢を 追いかけてやる 叶うまで
 成績が 出ると必ず 命乞い
 教室で モグラ叩きに 明け暮れる

吳港史上 最も不安な 副会長
 逆転に 期待を込めた 最終回
 試験中 何度も食べた ランボテト
 試験中 テスト終われば 帰りたい
 行き帰り とても遠いな 島暮らし
 やば過ぎる 目標早く 見つけなきゃ
 やる気出ず 男だらけの 体育祭
 定期試験 勉強しても 大差なし
 一年生 厳しすぎるよ 何もかも
 我がクラス 毎日朝立ち 元気よし
 半年で 初めのやる気 どこへやら
 もう目前 ストレスたまり 大噴火
 一週間 休みが多い 水曜日
 先生も 生徒もみんな 疲れ気味
 担任と 副担吳港の 迷コンビ
 行く末で 役に立つのか 二次関数
 好天も なぜか吳港は 雷が
 体育祭 女子が見に来て 火がついた
 授業中 凡ミスよくする あの先生
 一年生 みろくの里は 地獄行
 八時間 うつろに響く 掛け声よ
 実習時 並ぶ姿は あの光景
 おかしいな テスト終わって 午後授業
 体育祭 みんなの笑顔 花開く
 指導室 一日入れば 人変わる
 大金星 花の独身 おさらばだ
 校則で 拘束しすぎは いけません
 賞状を 取ってもなぜか 怒られる
 頭見て 先生も辛いと わかるよな
 崖つぶち ゲーム三昧 大丈夫？
 あいつらは いつもお気楽 うらやまし
 夏期鍛錬 授業と天秤 授業マシ
 いかついが 見た目と違い 几帳面
 恐ろしや 胸ポケットの あのカード
 教室に 台風直撃 あと静か
 あと少し 何とかかなりそう マイスター
 七時間 いつもみんな 愚痴ってる
 さあ受験 雑草魂 見せてやる
 夏期鍛錬 きついしんどい 辛かった
 百点を 取って喜ぶ 夢の中
 サボりすぎ 人生初の 0点だ
 席替えと テスト返しに 大興奮
 自信あり 勉強せずに 合格じゃ
 あと少し 残りの生活 楽しむぞ
 校長は 太陽よりも 熱い人
 ちらつかす 印籠代わりの あのカード
 春来たが またこの一年 真暗闇
 試験中 鉛筆転がし 運試し
 命乞い するならちゃんと なぜやらん
 校長が 酷暑に思わず 「夏い暑」